



杉並区立杉並第五小学校 TEL3392-6528

有終の美を成す

副校长 土上 智子

杉並第五小学校での生活も残すところ1月半余りになり、全てのことがまとめの時期に入っています。これまでの成果をお見せするべく今、準備を進めているところです。

今年度、校内研究の一環として、たくさんの方やゲストティーチャーをお招きして、充実した学習活動を行うことができました。そのまとめとして、別紙でもご紹介しているとおり、2月8日と9日の最後の学校公開で、各学年とも地域の方やゲストティーチャーをお招きした授業を計画しています。

また、2月23日のさよなら集会、6年生を送る会や閉校記念式典へ向けた準備も進んでいます。閉校記念式典には、4・5・6年生の児童が参列し、130名を越えるご来賓から出席のお返事をいただいている。

“有終の美を成す”とは物事の最後の仕上げをなし終え、立派な成果をあげることを言いますが、この言葉は終わりよければ全てよしという意味合いとは違うと思います。例えばこれまで、保護者や地域の方に、運動会や学芸会等様々な学校行事を通して子どもたちの姿を見ていただきましたが、その時の子どもたちの演技は日々積み重ねてきた練習や普段の学習の成果です。しかし、当日失敗してしまった子どももいれば、充分に普段の力を出し切れなかった子どももいます。それでは、結果として失敗してしまったらそれは成果をあげたことにならないのかといったら、それは違うと思うのです。たとえ当日は充分力を発揮できなかつたとしても、それまで積み重ねてきた力という

ものは確実に子どもたちに身についています。そして、その身についた力は、この一つの行事は終わったとしても、次の取り組みへの原動力となっていきます。そういう意味で最後の成功だけが成果ではないと思うのです。

そうはいっても、その日だけの勝負、例えば受験など、その当日力を出せなかつたら不合格になってしまうというものもあります。試験に合格しないということは、‘立派な成果’とはいえないかもしれません、一つの目標に向かって努力を続けたという事実は大きな成果として残り、身につけた力はその後いろいろなところで生かすことができます。物事が自分の思いどおりにいかないということは、日々の生活の中でたくさん起こり得ることです。私自身を振り返ってもそうですが、失敗し、挫折するたびにそれを乗り越える強さを身につけられたような気がします。受験勉強の真っ只中にいるときはそれがすべてで、合格イコールゴールのような気がしますが、後で振り返ってみると、それはゴールではなく、人生の多くの分かれ道の中の小さい一つの岐路に過ぎなかつたのだと思える日が来ると思います。人生における有終の美はずっと先にあるようです。

81年という長い歴史と伝統のある杉並第五小学校は、ここで幕を閉じることになりますが、見方を変えれば、天沼小として生まれ変わる新しいスタートでもあります。杉五小の記憶は私達の中にずっと残り、これからも私達を支えてくれるものであると信じています。

今月の目標

生活の目標

寒さに負けず
元気よく過ごしましょう。

保健の目標

休み時間には窓を開け
空気の入れかえをしよう。

給食の目標

みんなで協力しましょう。